



宮司プレス 第二百四号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年八月三十一日

◇立秋をすぎたとはいえ、命を脅かすような異常気象ともいえるべき、危険な残暑が続く日々

であります。 過日、首都圏から参拝された方が、「このお宮は、風がさわやかで、涼しいですね」とおっしゃいました。 私共の祭典で奏上

する祝詞は、「朝羽振る風も清しき此の大宮居に神鎮まります掛け巻くも畏き彦島八幡宮の

大前に恐み恐みも白さく」と書かれています。さらに、それから、報告、感謝、祈願、誓いといった祈りの思いを言葉にして、神様に奏上しています。 私どもの祈り、心の思いは、目には見えませんが、その心を形にしたものが言葉であり、それが、言葉という祝詞なのです。 そ

の「朝羽振る」とは、「風」の枕詞で、現代語に直しますと、「清々しい風が吹き寄せるところをまほろば（うるわしい場所という意味の古語です）」とお鎮まりになつていらつしやる大神様の「大前に」と奏上しているのです。 清々

しい風の吹くお宮を参拝され、少し、大袈裟ですが、大都會の喧騒では、とつてい感じることでできない、感性、センス オブ ワンダーが、

研ぎ澄まされたのではないのでしょうか。

◇作家の藤本義一さんは、「さわやか」の語源は、「沢の柔らかさ」だとおっしゃいました。 ま

さに、溪谷の清流の光の輝きです。 その藤本義一さんは、「人は、生きることを教えてくれた人のことを、決して忘れてはならない」と諭さ

れています。 藤本さんは、昭和一桁のお生まれでしたので、先の大戦の戦前戦中と、大切な家族や学友を失つておられ、生かされて生きて

いることの尊さを、切々と語られたのです。 私の母も、終戦を迎えた時は、十一歳でしたので、夜の空襲の恐ろしさが、フラッシュバック

するのでしようか、花火を見るのを嫌がっていました。 先の大戦では、軍人さんはじめ三百万人の方々、尊い命を捧げられました。 私どもの今の繁栄は、この三百万人の御英霊

御霊のお陰だと、感謝の心を忘れてはなりません。 ◇人類の悠久（気の遠くなるようなはるかかな時間のこと）の歴史の中で、全く戦争のなかつた時間を積算しますと、二百五十年しかないそうです。 これを戦争と戦争の間の時間、

「戦間期」といいます。 わが国では、戦後の七十八年が、「戦間期」という名の平和な時間なのです。 そのように考えますと、この七十八年は、何物にも変えられない、とても貴重で大切な時間ということになります。 さらに、その貴重で大切な時間を、前述の三百万人という尊い御霊のお陰で、享受（受け取り、自分のものにしていくという意味）していることに思いを寄せ続け、決して忘れてはならないのではないのでしょうか。

◇さて、前号で、平成という元号の出典である、書経の「地平らぎ天成り」について詳述しましたが、実は、「六府三事允に治まる」という章句が続くのです。 地が平和になるための政治の在り方をいっています。 「府」というのは倉庫のことで、六府とは六つの倉庫のことです。 政治とは、まず、この六府「水火金木土穀」の倉庫が完備していることだといえます。 水性の倉庫とは、飲料水、生活用水、医療用水などの倉庫です。 火性の倉庫とは、燃料、石油、石炭などのエネルギー倉庫です。 金性の倉庫とは、各種金属の倉庫。 木性の倉庫とは、材木や建築資材などの倉庫です。 穀の倉庫とは、言うまでもなく、食料の倉庫です。 今年は、明日で、関東大震災から救えて、ちようど、百年となりますが、この「六府」は、大地震、大津波、大火災等の天災を乗り越えるための「命の倉庫」といえるでしょう。 「政府」

や「幕府」と「府」が入っているのも、国民に安心を与えることこそが、政治の最大の責務としたからでしょうか。

◇しかし、もつと大切なことは、政治に、「民を思いやる心」がなくてはならない、それこそが、「三事」なのです。

三事とは、「正徳・利用・厚生」であります。「正徳」とは、正しい徳

で、人道、道義、道理に則して政治が行われ、それを反映して社会も、「徳」、つまり、「自己の最善を他者に尽くしきること」の精神、いわゆる、思いやり、利他の思いで満ち溢れている

ればならないのです。「利用」とは、この世に無駄なものは何一つなく、よく、用いること

で、特に「人材」は大切にすべきものです。「厚生」とは、生命尊重、人生重視の観点に立って政治が行われていることです。江戸時代、備中松山藩（現在の岡山県高梁市）に赴任した儒学者の山田方谷は、藩内の貧しい暮らしの人々、苦しい立場の人々をつぶさに見てまわり

「至誠則怛」とおっしゃいました。誠の心とは、弱く貧しく苦しい立場の人々に、心をよせて、その人々のことを忘れずに諸事を尽くす事

なのだと言われ、藩の財政の立て直しに尽力されたのです。ノーベル賞を授賞された北里

大学の大学博士も、研究室に、「この「至誠則怛」を掲げ、研究に邁進されたそうです。まさに、「至誠則怛」ともいえるべき、「三事」、そのよ

うな政治により、「地は平らぐ」のです。

◇高温多湿の日本の気候に則した高床式のお米の貯蔵倉庫、すなわち、「穀の府」に、お鎮まりになつていらつしやるのが、伊勢の神宮様、天照大御神様であります。

日本の六府の根源、言いかえるならば、日本国民の最大の安寧こそが、神宮様ではないでしょうか。日本のストック社会、貯える、「六府」の原点ともいえるでしょう。その神宮さん、通例によりますと、

畏きあたりの天皇陛下の御治定により、再来年の令和七年には、いよいよ山口祭が始まり、第六十三回の式年遷宮へむけて動き出します。「地平らぎ天成り、六府三事允に治まる」、戦間期が、永遠に続く泰平の世であるためにも、御英霊に感謝をし、「至誠則怛」を心掛け、日本国民の最大の安寧である、神宮様を大切に暮らしたいものです。御自愛をお祈り申し上げます。

◇八月の祭典行事報告
▼月次祭 *八月一日、十五日
▼八月花手水（二回開催）
*八月六日〜十日／十一日〜十六日



▼貴布祢神社月次祭 *八月一日
▼まほろば学級開催（下関市教育委員会後援）
*八月六日

※彦島の小学生二十五名が、一日、お宮で過ごしてくれました



◇八月の宮司動静（予定も含む）
▼朝粥会 *八月二十一日
▼神社関係団体
□奉賛会行事委員会 *八月二十六日
▼神社庁関係
□美祢神社総代会総会 *八月三日
□下関支部幹事会 *八月三日
□養成講習会開講式 *八月十六日
□神社庁下関支部総会 八月二十四日
□中国地区教化会議*八月二十九日（広島市にて開催）
▼自治会、学校関係
□迫町盆供養櫓設営作業 *八月十一日
□迫町自治会役員会 *八月二十三日
□國學院大學院友会山口県支部総会 *八月二十六日
□玄洋中校区ベースアップ研修会 *八月三十日
□社会福祉法人中部少年学院創立七十七周年記念祝賀会 *八月二十日
▼講演活動
□美祢神社総代会総会にて講演 *八月三日